

第2回館林市立学校適正規模・適正配置審議会

日 時：令和7年7月23日(水)10時30分～

場 所：館林市役所5階501A会議室

次 第

1 開 会

2 議 事

- 議 題(1) 館林市における適正規模について
- (2) 館林市における適正配置について
- (3) 学校規模の適正化の方法について
- (4) その他

3 その他

4 閉 会

Ⅰ 学校適正規模について

■ 学校全体の学級数

(1) 国の法令・手引き

学級数	小学校	中学校
	① 12学級～18学級 (全学年2学級～3学級)	① 9学級以上 (全学年3学級以上)
	② 6学級以上 (全学年1学級以上)	② 6学級以上 (全学年2学級以上)

(2) アンケート【1学年あたりの学級数】

学級数	小学校	中学校
	① 3学級	① 3学級 又は 4学級

(3) 館林市における適正規模

小学校：全学年でクラス替えができることが望ましいことから、12学級以上。

中学校：同学年内の教員で、教科担任による学習指導を行うことが望ましいことから、9学級以上。

学級数	小学校	中学校
	12学級以上 (全学年2学級以上)	9学級以上 (全学年3学級以上)

■ 1学級あたりの児童生徒数

(1) 群馬県の基準

児童生徒数	小学1・2年生	小学3年生～中学3年生
	30人	35人

(2) アンケート

児童生徒数	小学校	中学校
	① 21人～30人	① 31人～35人

(3) 館林市における適正規模

小学校：【上限】群馬県の学級編成基準とし、小学1・2年生30人、小学3年生～小学6年生35人。

【下限】1学年2学級編成となるためには、小学1・2年生は、1学級の最小で16人、小学3年生～小学6年生は、1学級の最小で18人を有する必要がある。

児童生徒数	小学1・2年生	中学1年生～中学3年生
	1学級16人以上30人以下	群馬県の学級編成基準に準じる
	小学3年生～小学6年生	
	1学級18人以上35人以下	

2 学校適正配置について

(1) 国の法令・手引き・調査研究

通学距離：小学校概ね4km以内、中学校概ね6km以内

通学時間：概ね1時間以内を一応の目安として市町村が判断

※通学方法にかかわらず、40分以上の通学になると、児童生徒がストレスを感じる割合が高くなるという報告がされている。

「通学制限に係る児童生徒の心身の負担に関する調査研究」（文部科学省 2008）

(2) アンケート

通学時間：小学校 ① 30分以内 ② 15分以内
中学校 ① 30分以内 ② 15分以内

通学方法：小学校 ① 徒歩 ② スクールバス
中学校 ① 自転車 ② 徒歩

(3) 館林市における適正配置

通学時間：概ね**40分以内**

徒歩通学の場合、通学時間40分で通学できる距離

小学校概ね2.3km、中学校概ね2.8km

通学方法・通学距離

学校	通学方法	通学距離
小学校	徒歩	概ね 2.3km以内
	スクールバス等	2.3km超
中学校	徒歩	概ね 2.8km以内
	自転車	概ね 6.0km以内（学校ごとの実情による）
	スクールバス等	6.0km超

※中学校の自転車による通学距離については、部活動の下校時刻や通学路の実態等を勘案し、学校ごとにその実情に応じた判断が必要となる。

3 学校規模の適正化の方法

今後、本市の望ましい適正規模から外れる場合は、適正化に向けて以下のような検討が必要である。

(1) 学校の統合

(2) 通学区域の見直し 又は 弾力化

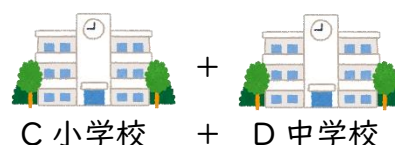
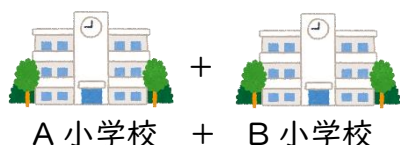
■学校再編について

学校再編は、主に学校の統合や通学区域の見直しによって、教育環境の最適化を図る手法。学校の統合は、隣接する学校を組み合わせ、既存の施設を活用したり、児童生徒数の多い学校の校舎を使用したりすることが基本となる。学校再編を進める際には、保護者や地域の合意形成が不可欠であり、説明会や協議会などを通じて丁寧な説明と意見聴取を行う必要がある。

(1) 学校の統合

複数の学校を1つの学校にまとめることで、教育資源の効率化や学校運営の合理化を目指す。統合先の学校の教育内容を基本とし、校舎や校名を決定していく。

【例】



(2) 通学区域の見直し

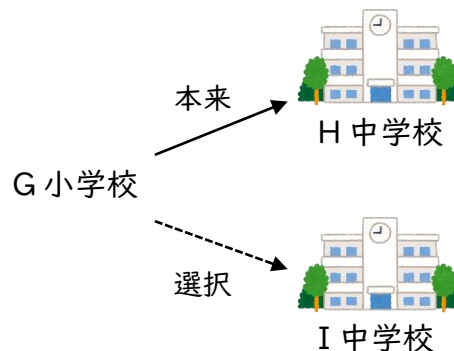
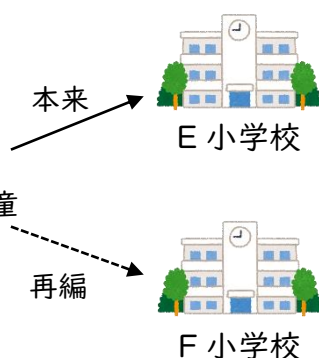
①通学区域の再編

児童生徒の居住地に基づいて定められた通学区域を、学校の統合や児童生徒数の変動に合わせて見直しを行う。通学路の安全確保や学校間の距離などを考慮して検討される。

②学校選択制

保護者が、通学区域の学校を選択できる制度。学校の教育方針や特色を考慮して、子どもの個性に合った学校を選べるメリットがある一方、通学距離が長くなるなどのデメリットも考慮する必要がある。

【例】 ○○町
在住の児童



(3) 学校再編のメリット・デメリット

メリット	デメリット
○教育環境の向上 児童生徒数増加により、多様な教育活動や施設・設備を活用できるようになる。 ○教員の専門性向上 専門性の高い教員を配置しやすくなり、より質の高い教育を提供できるようになる。 ○教育効果の最適化 児童生徒の年齢や発達段階に合わせた教育を効果的に行うことができるようになる。 ○学校施設の有効活用 学校再編に伴う校舎の改築や使われなくなった校舎を有効活用できる。 ○財政的な効率化 教職員の配置や校舎の維持管理にかかる費用を削減できる。 など	●通学距離の増加 児童生徒が遠くまで通学しなければならなくなる可能性がある。 ●児童生徒の精神的な負担 環境の変化により、児童生徒が精神的な負担を感じる可能性がある。 ●地域とのつながりの希薄化 学校が遠くなることで、地域とのつながりが薄れる可能性がある。 など

■地域における学校の役割

役 割	統合を行った場合の課題
地域コミュニティの核としての機能 ①防災拠点としての機能 ②保育機能 ③地域交流の場 など 市内全ての学校がコミュニティ・スクールとなっている 地域全体で子育てしていくという考え方を醸成	・通学時間、通学距離が伸長する ・通学方法の確保（スクールバス等） ・バス通学等になった場合、児童生徒の体力低下が懸念される ・環境が大きく変化したことによる児童生徒の心のケアが必要 ・地域住民の防災・保育・地域交流の場の確保が必要 ・使われなくなった校舎や跡地の利用 など

※コミュニティ・スクール＝学校運営協議会を設置し、地域住民や保護者などが、学校運営に参画する仕組みのこと

館林市立小中学校の児童生徒数 将来推計（R7～R18）

児童数

← R8～R13は市内在住未就学児数を基に算出

R14以降はR7～R13の増減率を基に、さらに5年間を算出 →

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	6年間の増減率
一小	481	463	427	418	407	409	392	19% 減
二小	228	213	214	211	196	200	203	11% 減
三小	330	324	295	278	268	248	258	22% 減
四小	54	48	41	37	28	26	23	57% 減
五小	257	240	227	217	202	193	170	34% 減
六小	262	252	253	236	218	204	199	24% 減
七小	100	85	87	79	72	65	55	45% 減
八小	403	401	378	366	352	337	324	20% 減
九小	139	129	131	129	117	114	113	19% 減
十小	432	418	402	396	377	351	346	20% 減
美園	318	306	287	272	238	234	216	32% 減

1年間の増減率	R14	R15	R16	R17	R18
3.1% 減	379	367	355	344	333
1.8% 減	199	195	191	187	183
3.6% 減	248	239	230	221	213
9.5% 減	20	18	16	14	12
5.6% 減	160	151	142	134	126
4% 減	191	183	175	168	161
7.5% 減	50	46	42	38	35
3.3% 減	313	302	292	282	272
3.1% 減	109	105	101	97	94
3.3% 減	334	323	312	301	291
5.3% 減	204	193	182	172	162

生徒数

← R8～R13はR7年度中学校新入生進学率を基に算出

R14以降はR7～R13の増減率を基に、さらに5年間を算出 →

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	6年間の増減率
一中	433	414	402	378	375	364	336	22% 減
二中	238	216	230	229	230	213	190	20% 減
三中	384	367	339	313	301	298	278	28% 減
四中	408	387	384	365	360	329	308	25% 減
多中	357	326	297	289	285	273	260	27% 減

1年間の増減率	R14	R15	R16	R17	R18
3.6% 減	324	312	300	289	278
3.3% 減	183	177	171	165	159
4.7% 減	265	252	240	228	217
4.2% 減	295	282	270	258	247
4.5% 減	248	236	225	214	204

児童数及び学級数の推計																・R8～R13の児童数は、市内在住未就学児数を基に算出																・R14以降は、R7～R13の増減率を基に算出									
学校名	学年	R7			R8		R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18																
		児童数		学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数															
		通常	特支																																						
一 小	1	63	7	3	65	3	49	2	77	3	74	3	74	3	53	2	52	2	37	2	65	3	63	3	63	3															
	2	66	6	3	70	3	65	3	49	2	77	3	74	3	74	3	53	2	52	2	37	2	65	3	63	3															
	3	77	8	3	72	3	70	2	65	2	49	2	77	3	74	3	74	3	53	2	52	2	37	2	65	3															
	4	81	5	3	85	3	72	3	70	2	65	2	49	2	77	3	74	3	74	3	53	2	52	2	37	2															
	5	79	6	3	86	3	85	3	72	3	70	2	65	2	49	2	77	3	74	3	74	3	53	2	52	2															
	6	77	6	3	85	3	86	3	85	3	72	3	70	2	65	2	49	2	77	3	74	3	74	3	53	2															
	特支	—	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																
	合計	481		25	463	18	427	16	418	15	407	15	409	15	392	15	379	15	367	15	355	15	344	15	333	15															
二 小	1	27	0	1	31	2	36	2	42	2	27	1	37	2	30	1	27	1	32	2	38	2	23	1	33	2															
	2	30	3	1	27	1	31	2	36	2	42	2	27	1	37	2	30	1	27	1	32	2	38	2	23	1															
	3	38	4	2	33	1	27	1	31	1	36	2	42	2	27	1	37	2	30	1	27	1	32	1	38	2															
	4	45	0	2	42	2	33	1	27	1	31	1	36	2	42	2	27	1	37	2	30	1	27	1	32	1															
	5	35	0	1	45	2	42	2	33	1	27	1	31	1	36	2	42	2	27	1	37	2	30	1	27	1															
	6	45	1	2	35	1	45	2	42	2	33	1	27	1	31	1	36	2	42	2	27	1	37	2	30	1															
	特支	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																
	合計	228		11	213	9	214	10	211	9	196	8	200	9	203	9	199	9	195	9	191	9	187	8	183	8															
三 小	1	35	2	2	47	2	44	2	37	2	44	2	39	2	47	2	37	2	35	2	28	1	35	2	31	2															
	2	55	4	2	37	2	47	2	44	2	37	2	44	2	39	2	47	2	37	2	35	2	28	1	35	2															
	3	49	5	2	59	2	37	2	47	2	44	2	37	2	44	2	39	2	47	2	37	2	35	1	28	1															
	4	53	1	2	54	2	59	2	37	2	47	2	44	2	37	2	44	2	39	2	47	2	37	2	35	1															
	5	72	1	3	54	2	54	2	59	2	37	2	47	2	44	2	37	2	44	2	39	2	47	2	37	2															
	6	50	3	2	73	3	54	2	54	2	59	2	37	2	47	2	44	2	37	2	44	2	39	2	47	2															
	特支	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																
	合計	330		16	324	13	295	12	278	12	268	12	248	12	258	12	248	12	239	12	230	11	221	10	213	10															
四 小	1	5(0)	0	1	3	0	5	0	5	1	1	0	7	0	2	1	0	0	3	0	3	0	0	0	4	0															
	2	8(2)	1(1)	1	5	1	3	1	5	1	5	1	1	1	7	1	2	1	0	1	3	1	3	1	0	1															
	3	9(6)	1(1)	1	9	1	5	0	3	0	5	0	5	0	1	0	7	0	2	0	0	0	3	0	3	0															
	4	9(1)	0	1	10	1	9	1	5	1	3	1	5	1	5	1	1	1	7	1	2	1	0	1	3	1															
	5	10(1)	2(2)	1	9	1	10	1	9	1	5	0	3	0	5	0	5	0	1	0	7	0	2	0	0	0															
	6	7(1)	2(1)	1	12	1	9	1	10	1	9	1	5	1	3	1	5	1	5	1	1	1	7	1	2	1															
	特支	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																
	合計	54(16)		8	48	5	41	4	37	5	28	3	26	3	23	4	20	3	18	3	16	3	15	3	12	3															

※色付部分は館林市における適正規模（学校全体の学級数と1学級あたりの児童数）を下回る数である。
1学級あたりの児童数：小学1・2年生は 1学級16人以上30人以下 / 小学3年生～小学6年生は 1学級18人以上35人以下

児童数及び学級数の推計																・R8～R13の児童数は、市内在住未就学児数を基に算出										・R14以降は、R7～R13の増減率を基に算出									
学校名	学年	R7			R8		R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18										
		児童数		学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数									
		通常	特支																																
五小	1	38	1	2	32	2	35	2	32	2	30	1	25	1	16	1	22	1	26	1	23	1	22	1	17	1									
	2	33	1	2	39	2	32	2	35	2	32	2	30	1	25	1	16	1	22	1	26	1	23	1	22	1									
	3	44	1	2	34	1	39	2	32	1	35	1	32	1	30	1	25	1	16	1	22	1	26	1	23	1									
	4	41	1	2	45	2	34	1	39	2	32	1	35	1	32	1	30	1	25	1	16	1	22	1	26	1									
	5	46	2	2	42	2	45	2	34	1	39	2	32	1	35	1	32	1	30	1	25	1	16	1	22	1									
	6	44	5	2	48	2	42	2	45	2	34	1	39	2	32	1	35	1	32	1	30	1	25	1	16	1									
	特支	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
	合計	257		14	240	11	227	11	217	10	202	8	193	7	170	6	160	6	151	6	142	6	134	6	126	6									
六小	1	33	3	2	36	2	45	2	30	1	31	2	26	1	31	2	28	1	37	2	22	1	24	1	19	1									
	2	39	1	2	36	2	36	2	45	2	30	1	31	2	26	1	31	2	28	1	37	2	22	1	24	1									
	3	45	4	2	40	2	36	2	36	2	45	2	30	1	31	1	26	1	31	2	28	1	37	2	22	1									
	4	42	5	2	49	2	40	2	36	2	36	2	45	2	30	1	31	1	26	1	31	2	28	1	37	2									
	5	39	5	2	47	2	49	2	40	2	36	2	36	2	45	2	30	1	31	1	26	1	31	2	28	1									
	6	43	3	2	44	2	47	2	49	2	40	2	36	2	36	2	45	2	30	1	31	1	26	1	31	2									
	特支	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
	合計	262		15	252	12	253	12	236	11	218	11	204	10	199	9	191	8	183	8	175	8	168	8	161	8									
七小	1	13	0	1	9	1	16	1	9	1	8	1	10	1	3	1	4	0	12	1	5	1	4	1	7	1									
	2	16	1	1	13	1	9	1	16	1	9	1	8	1	10	1	3	1	4	1	12	1	5	1	4	1									
	3	13	2	1	17	1	13	1	9	1	16	1	9	1	8	1	10	1	3	0	4	0	12	0	5	1									
	4	16	1	1	15	1	17	1	13	1	9	1	16	1	9	1	8	1	10	1	3	1	4	1	12	1									
	5	14	0	1	17	1	15	1	17	1	13	1	9	1	16	1	9	1	8	1	10	1	3	0	4	0									
	6	24	0	1	14	1	17	1	15	1	17	1	13	1	9	1	16	1	9	1	8	1	10	1	3	1									
	特支	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
	合計	100		9	85	6	87	6	79	6	72	6	65	6	55	6	50	5	46	5	42	5	38	4	35	5									
八小	1	57	6	2	63	2	52	2	60	2	50	2	49	2	50	2	52	2	41	2	50	2	40	2	39	2									
	2	58	6	2	63	2	63	2	52	2	60	2	50	2	49	2	50	2	52	2	41	2	50	2	40	2									
	3	56	8	2	64	2	63	2	63	2	52	2	60	2	50	2	49	2	50	2	52	2	41	2	50	2									
	4	68	4	2	64	2	64	2	63	2	63	2	52	2	60	2	50	2	49	2	50	2	52	2	41	2									
	5	67	8	2	72	2	64	2	64	2	63	2	63	2	52	2	60	2	50	2	49	2	50	2	52	2									
	6	65	0	2	75	2	72	2	64	2	64	2	63	2	63	2	52	2	60	2	50	2	49	2	50	2									
	特支	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
	合計	403		17	401	12	378	12	366	12	352	12	337	12	324	12	313	12	302	12	292	12	282	12	272	12									

※色付部分は館林市における適正規模（学校全体の学級数と1学級あたりの児童数）を下回る数である。
1学級あたりの児童数：小学1・2年生は1学級16人以上30人以下／小学3年生～小学6年生は1学級18人以上35人以下

児童数及び学級数の推計																・R8～R13の児童数は、市内在住未就学児数を基に算出										・R14以降は、R7～R13の増減率を基に算出									
学校名	学年	R7			R8		R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18										
		児童数		学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数									
		通常	特支																																
九小	1	18	1	1	21	1	20	1	21	1	16	1	17	1	18	1	17	1	16	1	17	1	12	1	14	1									
	2	18	2	1	19	1	21	1	20	1	21	1	16	1	17	1	18	1	17	1	16	1	17	1	12	1									
	3	27	1	1	20	1	19	1	21	1	20	1	21	1	16	1	17	1	18	1	17	1	16	1	17	1									
	4	22	1	1	28	1	20	1	19	1	21	1	20	1	21	1	16	1	17	1	18	1	17	1	16	1									
	5	18	0	1	23	1	28	1	20	1	19	1	21	1	20	1	21	1	16	1	17	1	18	1	17	1									
	6	28	3	1	18	1	23	1	28	1	20	1	19	1	21	1	20	1	21	1	16	1	17	1	18	1									
	特支	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
	合計	139		8	129	6	131	6	129	6	117	6	114	6	113	6	109	6	105	6	101	6	97	6	94	6									
十小	1	52	6	2	70	3	56	2	66	3	58	2	42	2	54	2	58	2	45	2	55	2	47	2	32	2									
	2	64	4	3	58	2	70	3	56	2	66	3	58	2	42	2	54	2	58	2	45	2	55	2	47	2									
	3	72	5	3	68	2	58	2	70	2	56	2	66	2	58	2	42	2	54	2	58	2	45	2	55	2									
	4	69	3	2	77	3	68	2	58	2	70	2	56	2	66	2	58	2	42	2	54	2	58	2	45	2									
	5	72	0	3	72	2	77	3	68	2	58	2	70	2	56	2	66	2	58	2	42	2	54	2	58	2									
	6	81	4	3	72	3	72	2	77	3	68	2	58	2	70	2	56	2	66	2	58	2	42	2	54	2									
	特支	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
	合計	432		20	417	15	401	14	395	14	376	13	350	12	346	12	334	12	323	12	312	12	301	12	291	12									
美園小	1	44	3	2	43	2	40	2	43	2	22	1	39	2	29	1	31	2	29	1	32	2	12	1	29	1									
	2	42	1	2	47	2	43	2	40	2	43	2	22	1	39	2	29	1	31	2	29	1	32	2	12	1									
	3	49	7	2	43	2	47	2	43	2	40	2	43	2	22	1	39	2	29	1	31	1	29	1	32	1									
	4	55	3	2	56	2	43	2	47	2	43	2	40	2	43	2	22	1	39	2	29	1	31	1	29	1									
	5	56	3	2	58	2	56	2	43	2	47	2	43	2	40	2	43	2	22	1	39	2	29	1	31	1									
	6	51	4	2	59	2	58	2	56	2	43	2	47	2	43	2	40	2	43	2	22	1	39	2	29	1									
	特支	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—									
	合計	318		15	306	12	287	12	272	12	238	11	234	11	216	10	204	10	193	9	182	8	172	8	162	6									

※色付部分は館林市における適正規模（学校全体の学級数と1学級あたりの児童数）を下回る数である。
1学級あたりの児童数：小学1・2年生は1学級16人以上30人以下 / 小学3年生～小学6年生は1学級18人以上35人以下

生徒数及び学級数の推計

・R8～R13の生徒数は、R7年度中学校新入生進学率を基に算出

・R14以降は、R7～R13の増減率を基に算出

学校名	学年	R7			R8		R9		R10		R11		R12		R13		R14		R15		R16		R17		R18	
		生徒数		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
		通常	特支																							
一中	1	143	9	4	133	4	117	4	128	4	130	4	106	4	100	3	118	4	94	3	88	3	107	4	84	3
	2	125	4	4	152	4	133	4	117	4	128	4	130	4	106	4	100	3	118	4	94	3	88	3	107	4
	3	150	2	5	129	4	152	4	133	4	117	4	128	4	130	4	106	4	100	3	118	4	94	3	88	3
	特支	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	433		16	414	12	402	12	378	12	375	12	364	12	336	11	324	11	312	10	300	10	289	10	279	10
二中	1	67	4	2	69	2	90	3	70	2	70	2	73	3	47	2	63	2	67	2	41	2	57	2	61	2
	2	74	2	3	71	2	69	2	90	3	70	2	70	2	73	3	47	2	63	2	67	2	41	2	57	2
	3	88	3	3	76	3	71	2	69	2	90	3	70	2	70	2	73	3	47	2	63	2	67	2	41	2
	特支	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	238		10	216	7	230	7	229	7	230	7	213	7	190	7	183	7	177	6	171	6	165	6	159	6
三中	1	124	3	4	116	4	96	3	101	3	104	3	93	3	81	3	91	3	80	3	69	2	79	3	69	2
	2	121	3	4	127	4	116	4	96	3	101	3	104	3	93	3	81	3	91	3	80	3	69	2	79	3
	3	128	5	4	124	4	127	4	116	4	96	3	101	3	104	3	93	3	81	3	91	3	80	3	69	2
	特支	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	384		15	367	12	339	11	313	10	301	9	298	9	278	9	265	9	252	9	240	8	228	8	217	7
四中	1	132	6	4	124	4	122	4	119	4	119	4	91	3	98	3	106	4	78	3	86	3	94	3	67	2
	2	119	6	4	138	4	124	4	122	4	119	4	119	4	91	3	98	3	106	4	78	3	86	3	94	3
	3	141	4	5	125	4	138	4	124	4	122	4	119	4	119	4	91	3	98	3	106	4	78	3	86	3
	特支	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	408		16	387	12	384	12	365	12	360	12	329	11	308	10	295	10	282	10	270	10	258	9	247	8
多中	1	95	9	3	94	3	99	3	96	3	90	3	87	3	83	3	78	3	75	3	72	3	67	2	65	2
	2	122	6	4	104	3	94	3	99	3	96	3	90	3	87	3	83	3	78	3	75	3	72	3	67	2
	3	121	4	4	128	4	104	3	94	3	99	3	96	3	90	3	87	3	83	3	78	3	75	3	72	3
	特支	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	357		15	326	10	297	9	289	9	285	9	273	9	260	9	248	9	236	9	225	9	214	8	204	7

※色付部分は館林市における適正規模【学校全体の学級数：9学級以上（全学年3学級以上）】を下回る数である。

館林市立小学校 学校規模と将来推計（R7～R9）

令和7年度

学校名	
児童数	

- ・学級数は特別支援学級の学級数が含まれていない

令和8年度

四小	七小		二小	五小	六小	三小	十小	一小
48	85		213	240	252	324	418	463
	九小				美園			
	129				306			
					八小			
					401			

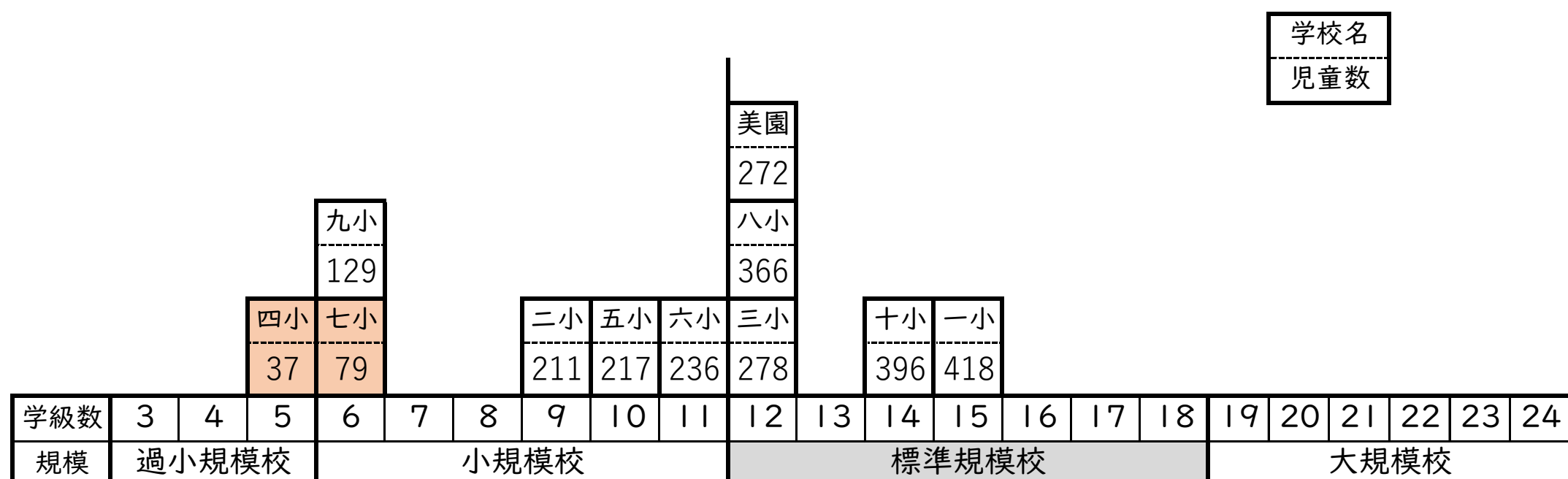
※色付の学校は、館林市における適正規模（学校全体の学級数と1学級あたりの児童数）を下回る

令和9年度

九小				美園		
131				287		
七小				八小		
87				378		
				六小		
				253		
	二小	五小	三小		十小	一小
	214	227	295		402	427

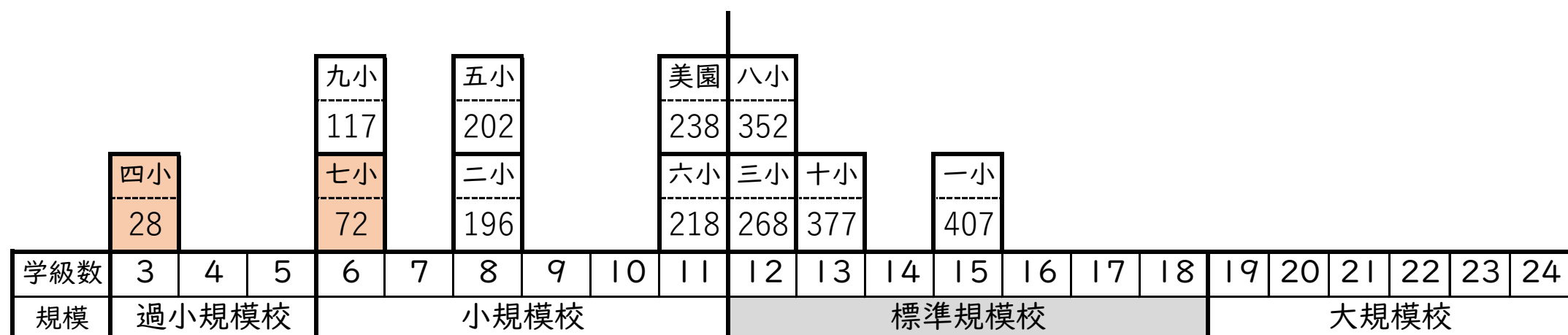
館林市立小学校 学校規模と将来推計（R10～R12）

令和10年度

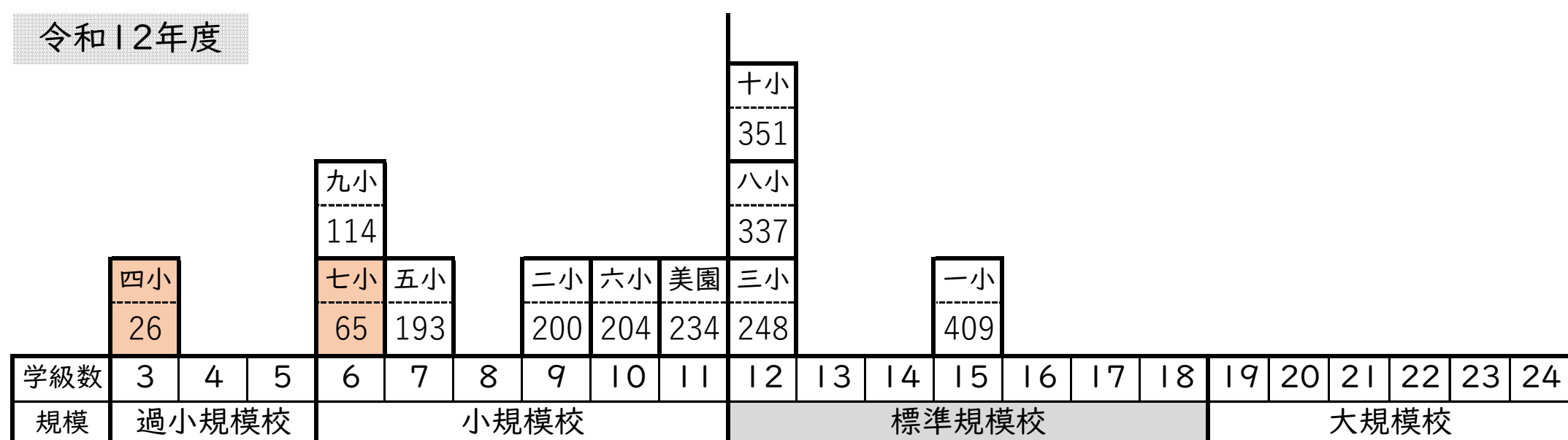


※色付の学校は、館林市における適正規模（学校全体の学級数と1学級あたりの児童数）を下回る

令和11年度

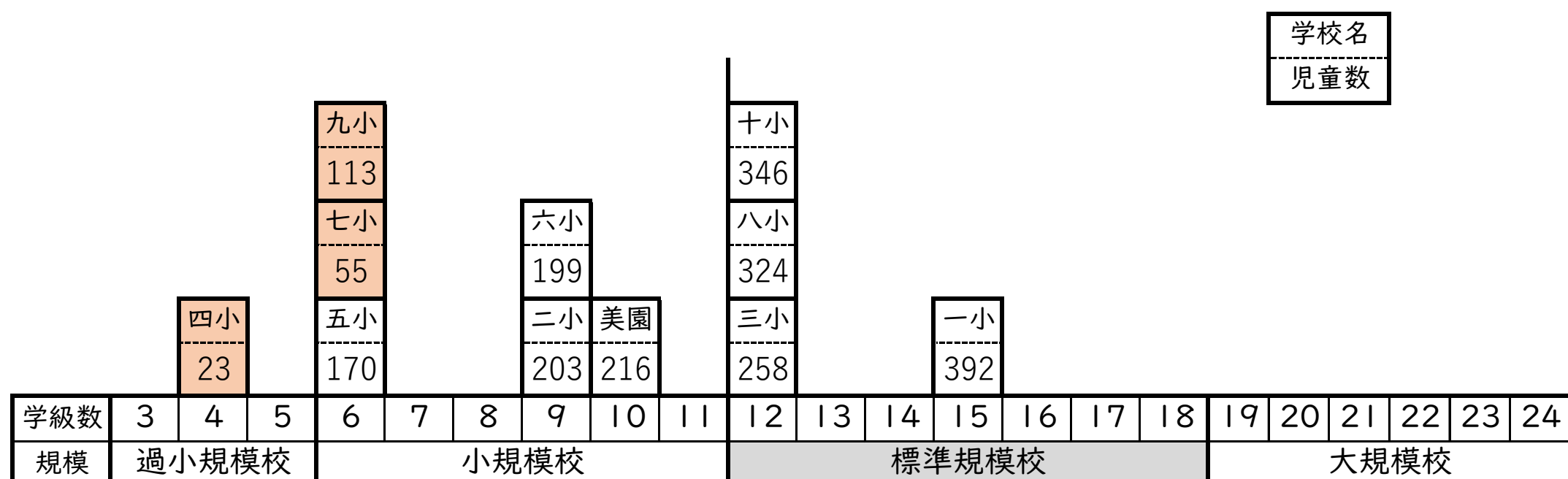


令和12年度



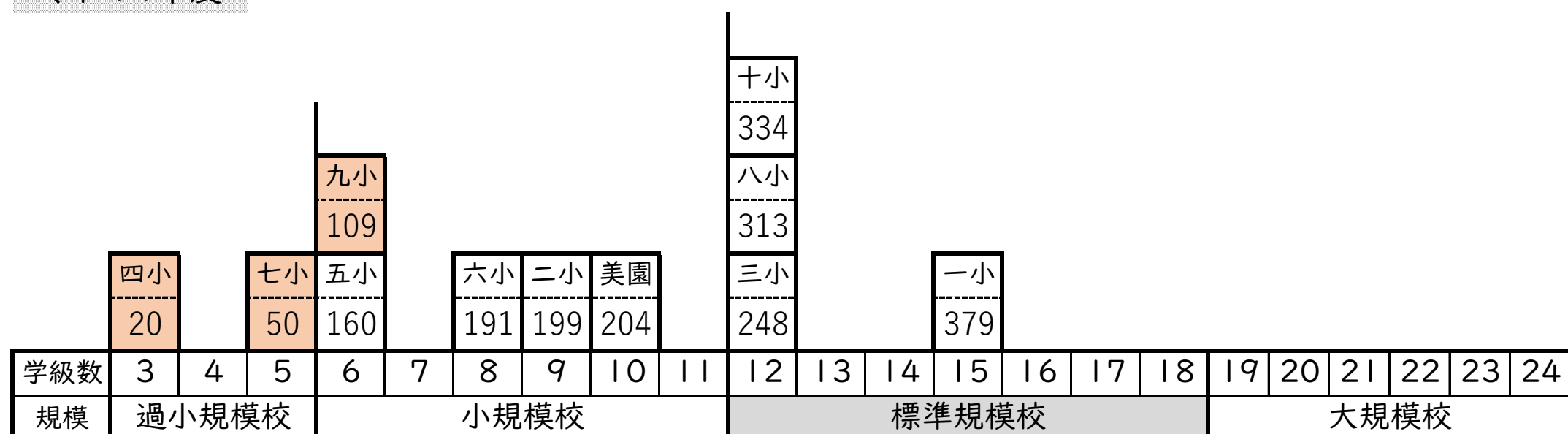
館林市立小学校 学校規模と将来推計（R13～R15）

令和13年度

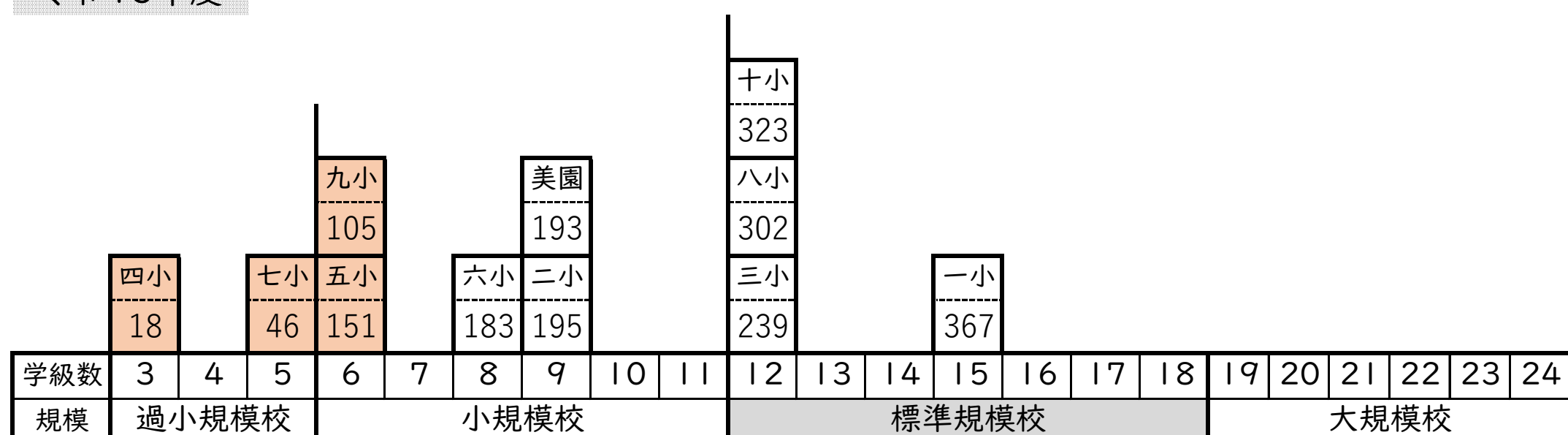


※色付の学校は、館林市における適正規模（学校全体の学級数と1学級あたりの児童数）を下回る

令和14年度



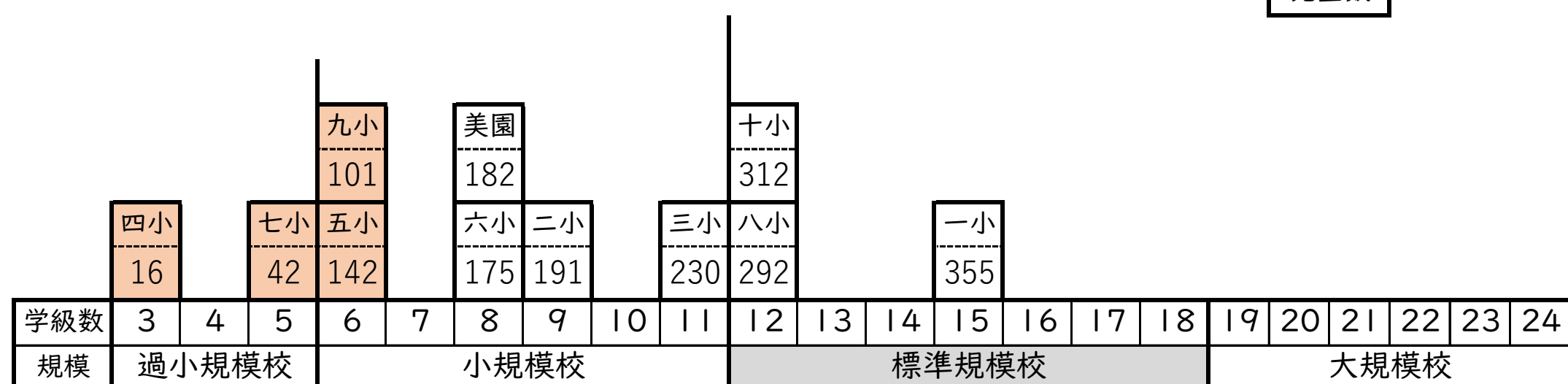
令和15年度



館林市立小学校 学校規模と将来推計（R16～R18）

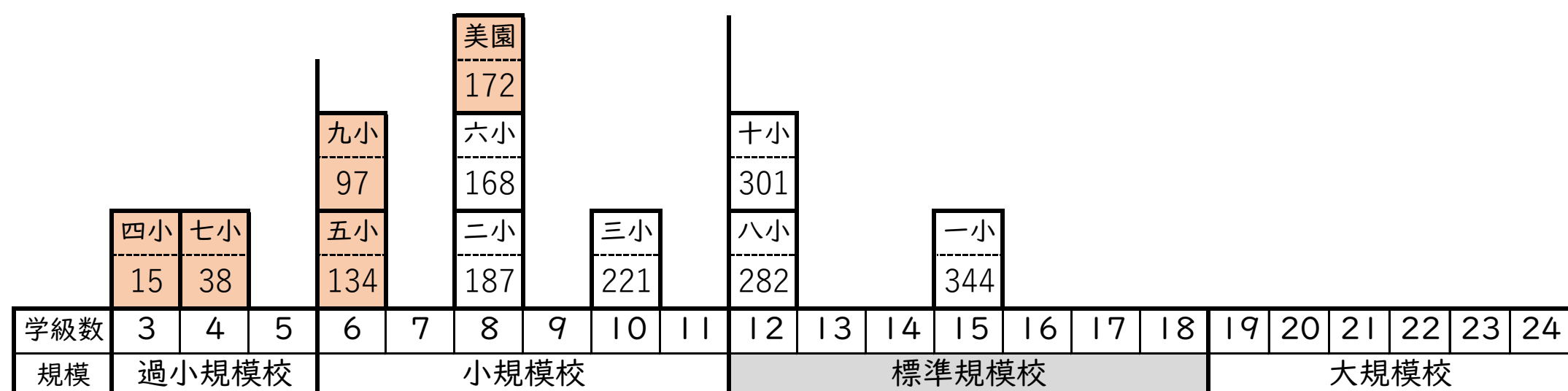
令和16年度

学校名
児童数

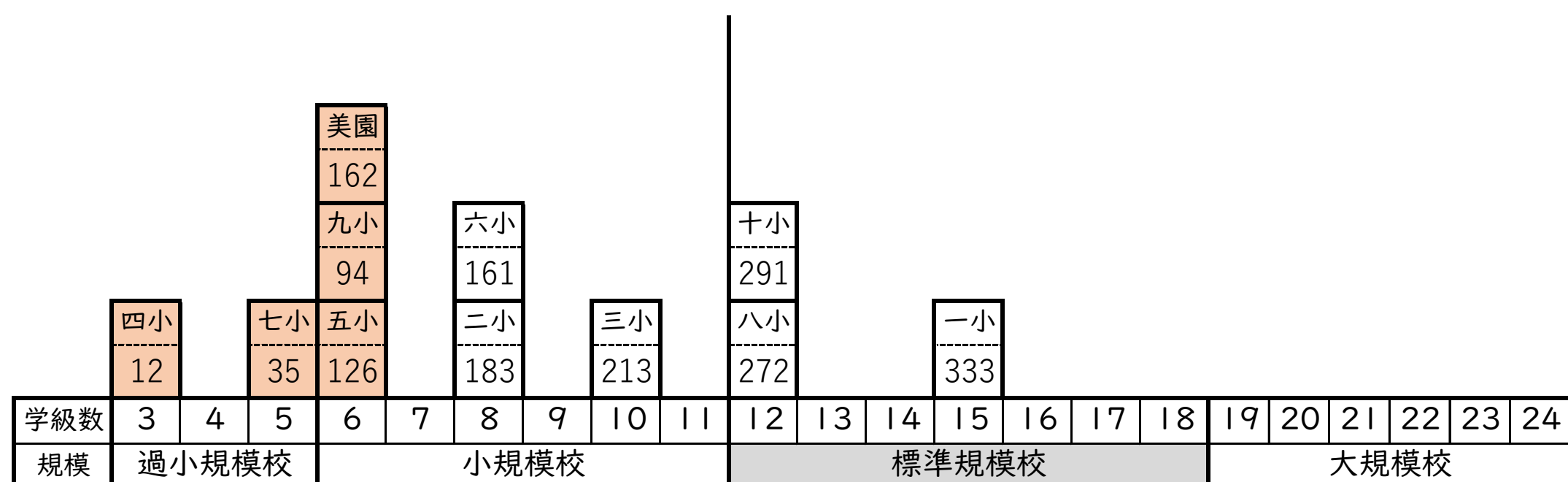


※色付の学校は、館林市における適正規模（学校全体の学級数と1学級あたりの児童数）を下回る

令和17年度



令和18年度



館林市立中学校 学校規模と将来推計（R7～R9）

令和7年度

学校名
生徒数

								四中											
								408											
			二中				多中	三中	一中										
			238				357	384	433										
学級数	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
規模	小規模校						標準規模校							大規模校					

※学級数は特別支援学級の学級数が含まれていない

令和8年度

								四中											
								387											
								三中											
								367											
		二中				多中		一中											
		216				326		414											
学級数	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
規模	小規模校						標準規模校							大規模校					

※赤線は館林市における適正規模【9学級以上】の境界線である
※色付の学校は、館林市における適正規模【9学級以上（全学年3学級以上）】を下回る

令和9年度

								四中											
								384											
								一中											
		二中		多中		三中													
		230		297		339		402											
学級数	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
規模	小規模校						標準規模校							大規模校					

館林市立中学校 学校規模と将来推計（R10～R12）

令和10年度

学校名

生徒数

二中	多中	三中	四中
229	289	313	365
			一中
			378

※赤線は館林市における適正規模【9学級以上】の境界線である

※色付の学校は、館林市における適正規模【9学級以上（全学年3学級以上）】を下回る

令和11年度

二中	多中	四中
230	285	360
	三中	一中
	301	375

令和12年度

二中	多中		
213	273		
	三中		
	298		
		四中	一中
		329	364

館林市立中学校 学校規模と将来推計（R13～R15）

令和13年度

学校名
生徒数

				多中															
				260															
		二中		三中	四中	一中													
		190		278	308	336													
学級数	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
規模	小規模校					標準規模校								大規模校					

※赤線は館林市における適正規模【9学級以上】の境界線である
※色付の学校は、館林市における適正規模【9学級以上（全学年3学級以上）】を下回る

令和14年度

				多中															
				248															
		二中		三中	四中	一中													
		183		265	295	324													
学級数	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
規模	小規模校					標準規模校								大規模校					

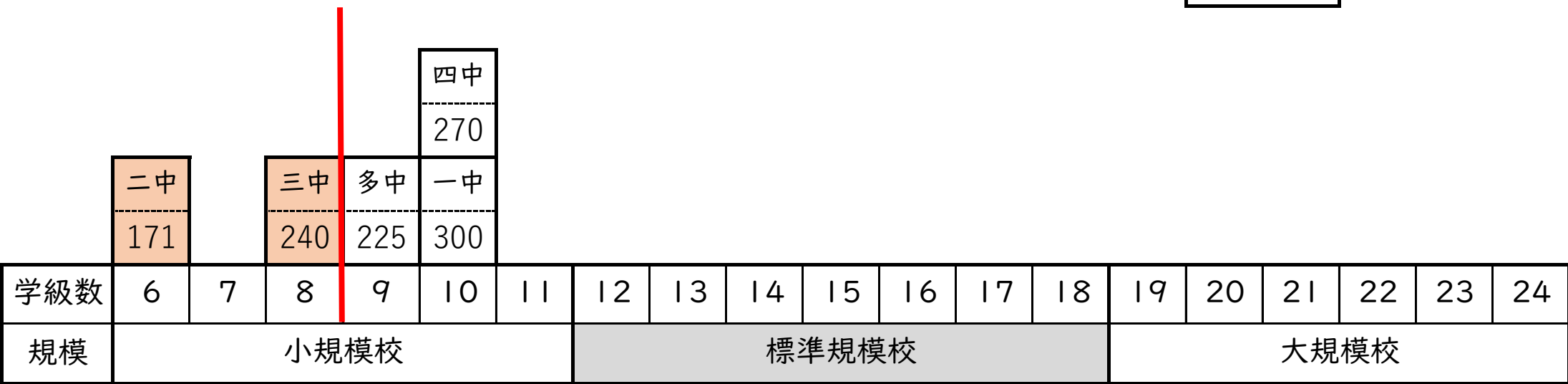
令和15年度

				多中	四中														
				236	282														
		二中		三中	一中														
		177		252	312														
学級数	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
規模	小規模校					標準規模校								大規模校					

館林市立中学校 学校規模と将来推計（R16～R18）

令和16年度

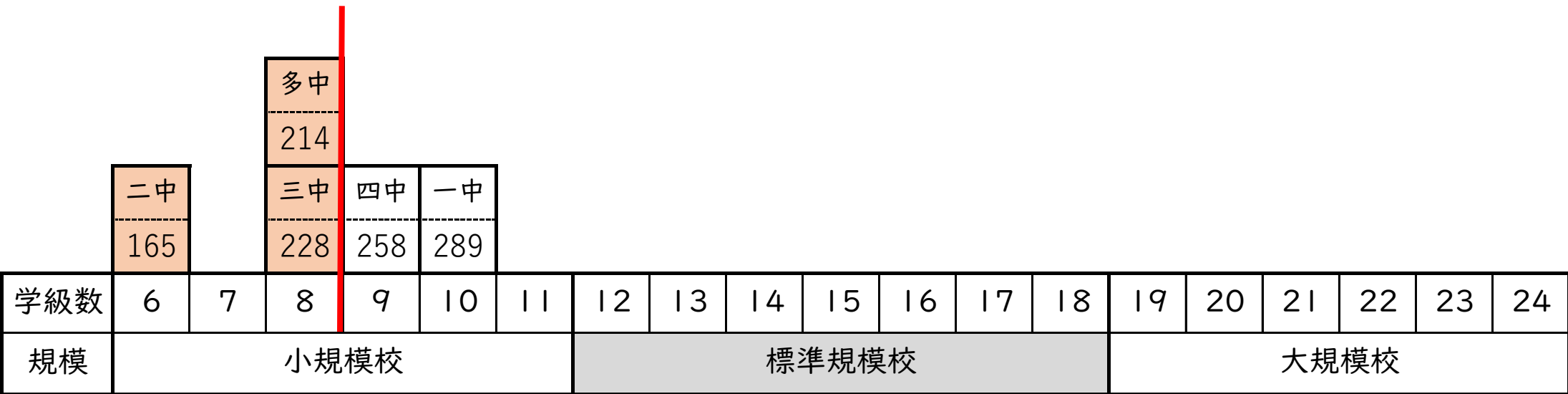
学校名
生徒数



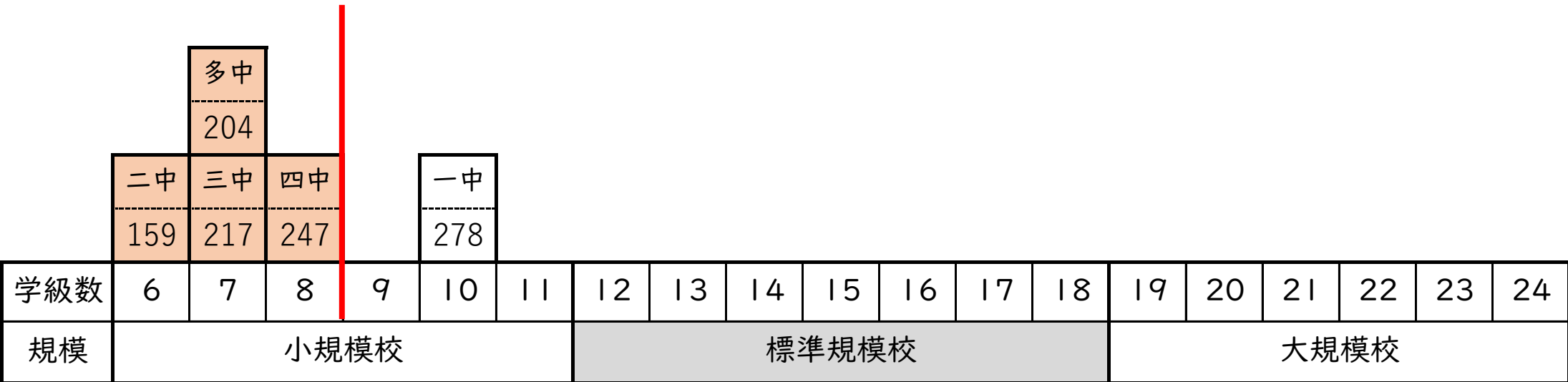
※赤線は館林市における適正規模（9学級以上）の境界線である

※色付の学校は、館林市における適正規模【9学級以上（全学年3学級以上）】を下回る

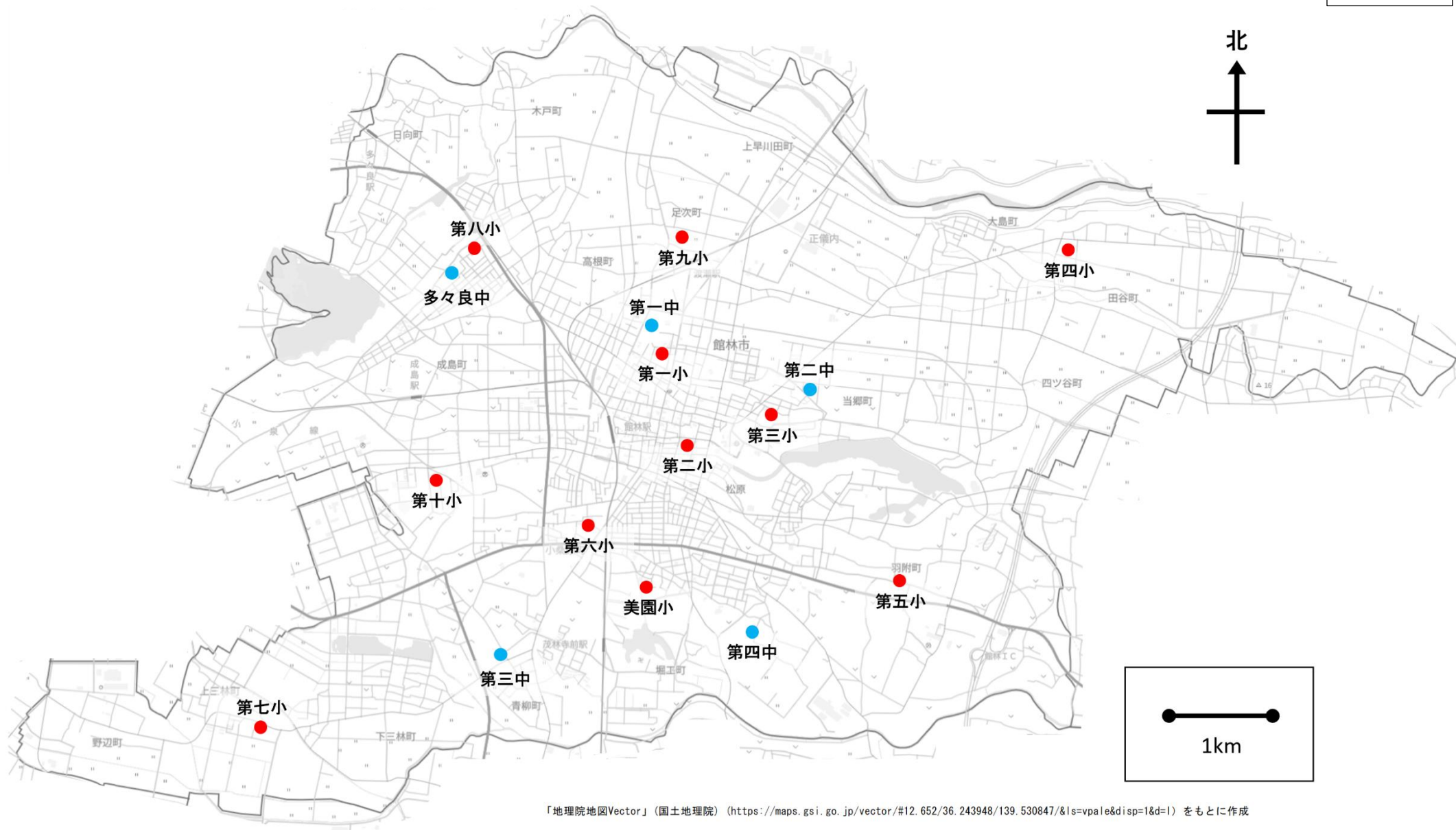
令和17年度



令和18年度

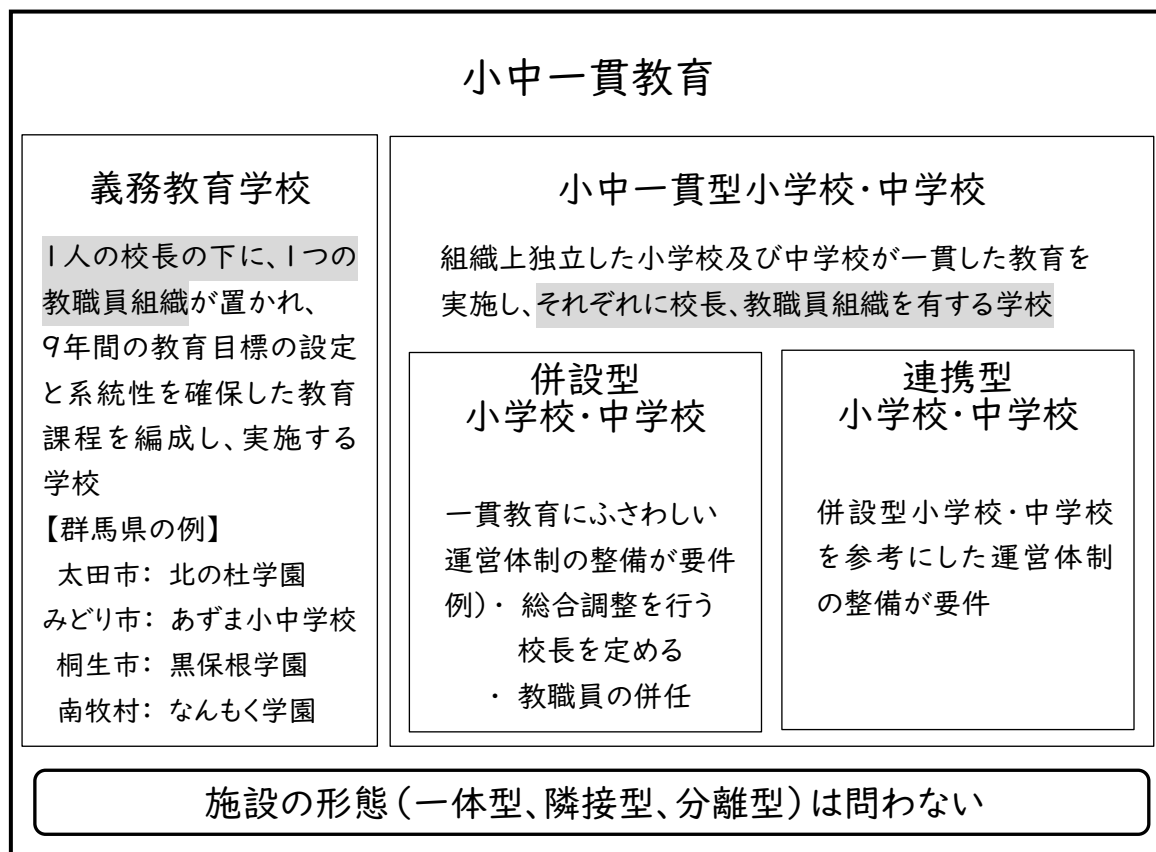


館林市立小学校・中学校の配置図



■小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教職員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

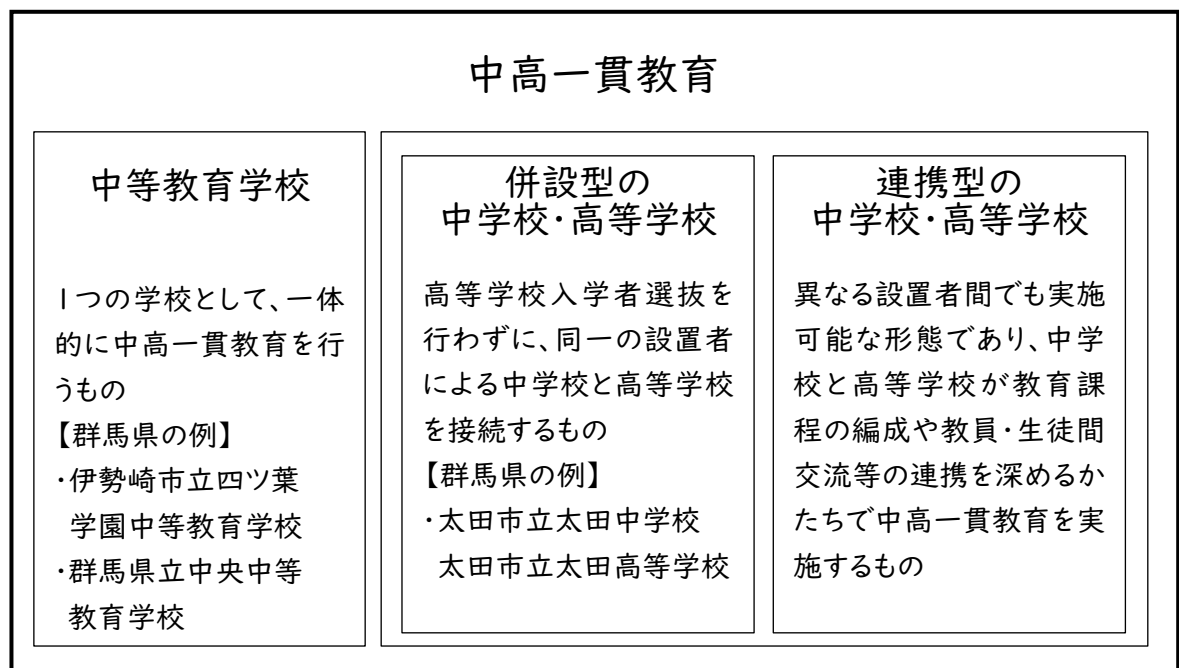


小中一貫教育のメリット・デメリット

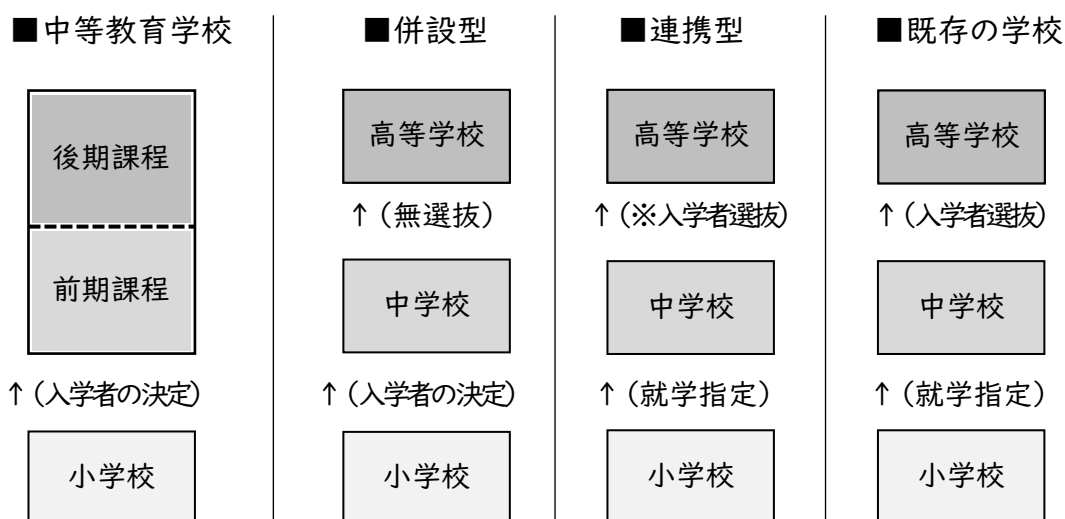
メリット	デメリット
○小中学校間の連携が強化され、教育の質が向上する ○異学年交流を通じて、思いやりや規範意識が育まれる ○地域社会との連携を深めることで、社会性が育まれる ○事務手続きや教育課程の調整が容易になる ○過疎化が進む地域では、学校の魅力を高め、移住を促す効果も期待できる など	●小中学校の間の切り替えがなくなること、生徒の新たな気持ちの切り替えや進学の実感感がなくなる可能性がある ●小学生が中学生を恐れてしまうのではないかと懸念がある ●小学校と中学校の組織文化や習慣の違いが大きく、その調整に時間がかかる など

■中高一貫教育

従来の中学校・高等学校の制度に加えて、生徒や保護者が6年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会をも選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指す教育



<中高一貫教育校の入学者の決定>



公立の中等教育学校及び併設型中学校では、学校教育施行規則により、入学者の決定にあたって、学力検査を行わないこととする。

※調査書及び学力検査の成績以外の資料により行うことが可能

中高一貫教育のメリット・デメリット

メリット	デメリット
○6年間同じ学校で過ごすため、環境の変化によるストレスが少なく、生徒同士の絆が深まりやすい ○高校受験がないため、学習の圧迫感が少なく、部活道や習い事を続けることができる ○高校の内容を先に学習できるため、大学受験に有利な場合がある ○学校によって独自の教育方針があり、生徒の個性を伸ばす教育が受けられるなど	●高校受験がないため、モチベーションが低下し、勉強を怠りがちになる生徒が出てくる ●6年間同じメンバーで過ごすため、人間関係が狭くなるのではないかという懸念がある ●入学の競争が激しく、過度な競争によるストレスが大きくなる可能性がある ●学校のレベルが高すぎると、生徒がついていけなくなる可能性があるなど

小規模校のメリット・デメリットについて

観 点	メリット	デメリット
人 間 関 係 等	○お互いを良く理解し、人間関係が深まる。 ○教員の目が行き届くため、児童生徒の関係性の变化に素早く気づくことができ、早期に対応することができる。 ○教員が意図的に活躍の場をつくることで関係性や相互評価の固定化を緩和し、新たな可能性を見い出すことができる。 ○教員が児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などを把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。	●児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。 ●人間関係の悪化やいじめ等があった場合にクラス替えによって一時的に離す等の対応ができない。 ●勉強が得意な子、運動が得意な子、おとなしい子などの関係性や相互評価が固定化し、そこから抜け出すことが難しい。 ●児童生徒の関係性や相互評価の固定化などの対応が教員個々の力量に左右されやすい。
社 会 性	○授業や学校行事等の場面で意見や感想を発表できる機会が多くなる。 ○児童・生徒会や異年齢の縦割り活動など、様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる。 ○縦割り活動等により、低学年のうちから先輩の活躍する姿を見ているため、目標とする具体的な姿をイメージできる。	●大きな集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、多角的な視点が身につみにくい。 ●学習や進路選択の模範となる先輩の数が少ない。 ●進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
学 習 ・ 行 事	○一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が可能になる。 ○異年齢活動や体験的・問題解決的な学習など、特色あるカリキュラム編成が可能となる。 ○体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。 ○外国語の発音や発表の指導、体育等の実技指導等、少人数であることを活かした教育活動が可能である。	●協働的な学びが深まりにくい。 ●多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。 ●切磋琢磨する環境の中で育成されるような意欲や成長が引き出されにくい。 ●学級対抗などができないため、行事の盛り上がりが限られている。 ●多様な学習形態により指導をすることが難しい。 ●体育の球技、音楽の合唱・合奏などの集団学習に支障が出る。 ●班活動やグループ分けに制約が生じる。

観 点	メリット	デメリット
学 習 ・ 行 事	○地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい。 ○運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。 ○教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である。	●授業でその教科が得意な子の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる。 ●クラブや部活動の種類が限定され、自由に選択することができない。 ●多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。
教 員 数	○特別な支援を必要とする児童生徒にきめ細かな対応をすることができる。 ○一人一人の教員の特色ある教育が実践しやすい。	●経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる。 ●教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、一人が担当する分掌が多く、負担を感じたりする。 ●教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になる可能性がある。 ●学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある。 ●教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい。